

MRI検査用 造影剤使用検査に関する説明

造影剤を使用することにより、あなたの病状をより正確に明らかにし、また新たな病変の有無、病変の性質についてより詳しい情報を得ることができます。

【造影剤の使用方法】

造影剤は、静脈に注射して体内に注入します。

【副作用について】

最近の造影剤は改良されてきたので副作用の頻度が低下し、その程度もより軽度になってきていますが、時として以下のような症状を発症する場合があります。

造影剤を使用した直後から症状の発症するケースが大半ですが、稀に24時間以上経過してから症状が出現してくる場合もあります。

【過敏症状】

- 1、皮膚症状：かゆみ、発疹、発赤、じんましん
- 2、消化器症状：悪心、嘔吐、腹痛
- 3、循環器症状：血圧低下、除脈、頻脈、血管痛
- 4、神経系症状：頭痛、ふらつき、めまい

【副作用発生頻度】

1) 軽い副作用

吐き気、動悸、頭痛、かゆみ、発疹などで基本的に治療を要しません。このような副作用の起こる確率は約100人につき1人以下、つまり1%以下です。

2) 重い副作用

呼吸困難、意識障害、血圧低下などです。このような副作用は通常は治療が必要で、後遺症が残る可能性は否定できません。そのため、入院や手術が必要なこともあります。このような副作用のおこる確率は約1万人につき5人、つまり0.05%です。

しかし、病状・体質によっては約100万人に1人程度の割合（0.0001%）で生命にかかわる重篤な副作用がおこりえる報告もあります。

【副作用に対する対応】

副作用が軽度の場合は、経過観察のみで改善する事が多いのですが、中等度の場合は症状に応じて抗アレルギー剤やステロイド剤などを投与する場合があります。高度の場合は、気管内挿管など救命処置を要する場合もあります。

当院では万一の副作用に対して万全の体制を整えて、検査を行っています。

もし変だと感じたら、ためらわずにすぐおっしゃってください。

その他、わからない事や気になる事があれば、医師、看護師あるいは検査担当者に申し出てください。